

# 「イノベーション25」中間とりまとめ ～ 未来をつくる、無限の可能性への挑戦～ (概要)

平成19年3月15日

イノベーション25特命室

# 2025年に向けたイノベーション

## 2025年の日本と世界

人口減少・高齢化

グローバル化・  
知識社会の進展

地球規模の課題  
(環境・エネルギー・水など)

科学技術  
社会  
人材の刷新

## なぜ、今イノベーションか

生産性の向上による国際競争力強化

課題(環境・高齢化・省エネなど)への  
挑戦を通じた豊かな生活と成長

病気、言語、情報、年齢、性差などの  
ハンディを小さくし、個人の能力を最大  
限発揮

# イノベーションで拓く2025年の日本

## 20のイノベーション代表例

- ・ カプセル1錠で寝ながら健康診断
  - ・ 高齢者でも丈夫な身体、認知症も激減
- 等

- ・ 地震発生後の15秒緊急対策により犠牲者が激減
  - ・ 衝突できない自動車
- 等

- ・ 家事からの解放 - 一家に1台家庭ロボット -
  - ・ 200平米200年住宅
- 等

- ・ 走れば走るほど空気を綺麗にする自動車
  - ・ 不毛の砂漠に緑のオアシス
- 等

- ・ ヘッドホンひとつであらゆる国の人とコミュニケーション
  - ・ 家に居ながらサイバーワールド上で日本を体験、世界を体験
- 等

## 21世紀の世界のモデルとなる日本

生涯健康な社会

安全・安心な社会

多様な人生を送れる社会

世界的課題解決に貢献する社会

世界に開かれた社会

「衝突できない自動車」実現には「技術＋社会制度」が必要。  
(XX年/XX年)は、技術の実現時期/社会に普及する時期を示す(科学技術予測調査より)。

- ・ 車車間通信システムの活用(2009年/2016年)
- ・ 高速道路等における自動運転システム(2012年/2020年)
- ・ 物同士が相互に存在、性質、状況を感知し自動的に危険を回避(2013年/2020年) 等

**技術の実現に加えて  
各種制度等の見直し  
が必要。**

# イノベーション推進の基本戦略

「科学技術イノベーション」「社会イノベーション」「人材イノベーション」の一体的推進  
「オープン」で「ユニバーサル」なシステムの構築

国民一人ひとりの意識改革  
「日本と世界の生活者の視点」に立脚した戦略づくり

## 科学技術イノベーション

基礎研究の更なる推進と多様性確保と  
ハイリスクでインパクトのある研究の強化  
世界の頭脳が集まる研究拠点づくり

徹底したエフォート管理などに基づく大  
学・研究機関の経営改革による研究力  
の強化、および大学の研究と教育両面に  
わたる国際競争力向上

生活者の視点に立脚した、ライフサイエ  
ンス、IT、工学、環境・エネルギー、サー  
ビス科学を融合した新たなプロジェクトの  
推進

基礎研究と市場の間での双方向での国  
内、そして国境を越えた異業種連携や異  
分野交流等の仕組みの強化

環境・エネルギー問題等、世界的課題の  
解決を目指した日本主導の科学技術国  
際協働プロジェクトの推進

知財・標準化活動の新たな国際展開

等

## 社会イノベーション

国民の「新たな豊かさ、心の豊かさ」を支  
える「サービス・イノベーション」創出の取  
り組み強化

新たな事業に対するリスクについて、  
セーフハーバー・ルール 等、スピードの  
あるイノベーションを促進する制度づくり  
免責条項を明確化してチャレンジを促すルール

特区制度の活用や政府による初期需要  
の創出などによるイノベーションを誘発す  
る新たな制度の構築

チャレンジを支援する資金供給の仕組み  
の構築

年齢、性別等に関わりなく意欲ある全  
ての人々が能力に応じて多様な場でチャ  
レンジ・再チャレンジできる新しい「働き方」  
の仕組みの構築

世界に対し「オープン」な企業活動、物流  
等を推進する環境整備

等

## 人材イノベーション

海外の若者との交流を拡大し、多様性  
を受け入れ、出る杭となる「人」づくり

・初等教育の段階から外国人との交流  
の場を拡大

・小中高における暗記型学習から思考  
型学習への転換、理数教育の強化、  
体験学習の充実 等

幅広い知識と深い専門性を有する「人」  
づくり

・高校卒業時までには最先端の科学技術  
の履修、現場体験の実施

・文系・理系区分の見直し 等

海外から優秀な人材を受け入れる環境  
の整備

早期のインターンシップ等の職業教育  
による自立心育成、起業家精神の涵養

等

# 早急に取り組むべき政策課題

## 環境を経済成長と国際貢献のエンジン

環境分野における技術協力、国際共同研究・共同実証等の推進(ODA活用策等)  
環境技術の国際展開の加速化(国際標準化等)  
環境外交の強化

環境分野国際リーダー育成  
環境ビジネスを伸ばす仕組み

## 次世代投資倍増(若者への投資、IT利用拡大に向けた取組み)

若者の国際交流の抜本的拡充  
・中学生、高校生のアジアの仲間との交流拡充  
・大学生以上の交換留学の大幅拡充 等  
生産性向上につながるIT活用の促進(オープンでユニバーサルなITインフラの整備等)

奨学金の拡充等、若者がチャレンジする機会の拡大  
理数教育の充実

## 大学改革

大学院、学部各レベルでの国際化の促進  
文系・理系区分の見直し  
競争的資金配分の見直しを含む研究機能の強化

大学の教育、研究、両面にわたる国際競争力の強化  
大学入試におけるAO入試のさらなる活用  
社会人教育の強化を含む教育機能の強化

## 20年後のイノベーション開花に向けた科学技術投資の抜本的拡充

20年後に花開くイノベーションの芽を生み出す基礎研究の多様性確保、特に20年後の担い手となる若手研究者への思い切った支援  
新技術等の審査体制の見直し、政府による初期需要創出支援等、基礎研究の成果を迅速に社会に届ける仕組みの整備  
最先端科学技術分野への取組の強化  
分野、組織を超えた多彩な人の交流の場づくり

企業形態に応じた民間研究開発投資促進の仕組み

## イノベーション創出・促進に向けた各種規制・制度・ルールの見直し

「サービス・イノベーション」を促す規制見直し  
スピードのある力強いイノベーションを促進する社会制度(特区制度の活用等)

物流効率化のための規制見直し等  
イノベーションを生むための「働き方」等の制度の見直し

## 「イノベーション立国」に向けた推進体制の整備

「科学技術イノベーション」、「社会イノベーション」、「人材イノベーション」を一体的に推進し続けるための府省の枠を超えた施策の総合的推進を図る体制

⇒ 政府関係各機関の協力も得ながら、さらなる検討を深め、5月末までに政府の戦略指針として「イノベーション25」をとりまとめ、「骨太の方針2007」へ反映。